

木材を使うことは、健全な森林づくりにつながります

- 木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用の一部です。
- 本県では、戦後や高度成長期に植えられた人工林の多くが木材として利用可能な時期を迎えており、森林の持つ多くの機能を発揮させるためにも、間伐など森林整備の着実な実施に加えて、木材を使って森を育てることは大切なことなのです。



花粉症対策にも役に立つ

- スギやヒノキを伐採して、花粉の少ない苗木や他樹種に植替えることにより花粉の少ない森林への転換が進みます。
- やまなしの木を使うことが、花粉症対策にもつながります。

地球温暖化対策にも貢献

- 森林は、光合成により大気中の二酸化炭素(CO₂)を吸収して成長し、幹や枝などの形で多量の炭素を蓄えています。
- このため、木材を住宅や家具等に利用することは、木材中の炭素を長期間にわたって貯蔵することにつながります(炭素貯蔵効果)。
- また、木材は、鉄などの資材に比べて、製造や加工に要するエネルギーが少なく、製造・加工時の二酸化炭素の排出量が抑制されることとなります(省エネ効果)。
- さらに、木材は再生産可能な資源であり、エネルギー源として燃やしても、再び森林が成長する過程で二酸化炭素が吸収されるという「カーボンニュートラル」な特性を有しており、化石燃料の使用を抑制することができます(化石燃料代替効果)。

吸収源・貯蔵庫としての森林・木材

▶ 森林はCO₂を吸収

- 樹木は空気中のCO₂を吸収して成長



▶ 木材は炭素を貯蔵

- 木材製品として利用すれば長期間炭素を貯蔵

排出削減に寄与する木材・木質バイオマス

▶ 木材は省エネ資材

- 木材は鉄等の他資材より製造時のエネルギー消費が少ない



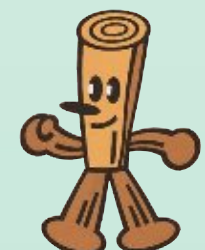
▶ 木質バイオマスは化石燃料等を代替

- マテリアル利用により化石資源由来製品(プラスチック)等を代替
- エネルギー利用(発電、熱利用)により化石燃料を代替



木材も地産地消

- 地域で育った木材の活用は林業の振興や森林の保全など地域のSDGsの達成に貢献します。



モックくん

Since 1991
山梨県産材普及
トレードキャラクター